

## 法政大学大学院 情報科学研究科 情報科学科専攻 窪田 歩夢

### ・自己 PR

高校時代に和太鼓部の部長を務めた経験から、私は主体性を最大の強みとしている。部員の技術向上とモチベーション維持の課題に直面した際、新しい刺激が必要と考えプロの和太鼓集団 TAO の元メンバーを講師として招くという画期的な提案を行った。プロの指導の下、部員は技術的にも精神的にも大きく成長し、演奏レベルの顕著な向上を実現した。この成果は、全国大会への出場という形で結実した。この経験から、主体的に行動することの重要性を学び、新しいプロジェクトや課題への積極的な取り組みに活かしている。貴社においても、この経験はチームのイノベーションを推進し、困難な課題を解決するための力となると確信している。

### ・ガクチカ

情報科学への深い魅力に惹かれ、私は専攻を変更した。この決断は、周囲との環境差や自身の知識不足という課題をもたらしたが、教授や先輩からのアドバイスを受け、毎日 10 時間以上を情報科学の勉強に費やし知識を吸収した。この努力が現在取り組んでいる研究成果につながった。医師からも高い評価を受け、実用化と現場導入が期待されている。この経験は、未知の領域への挑戦でも、自分の強みを活かし目標を達成する力があることを確信させた。新しい分野への挑戦は困難ではあるが、社会でも積極的に行動して価値ある成果を生み出すことを目指している。

### ・研究内容

私は医師と協力し、X 線画像から外反母趾を自動検出する医療診断支援システムの開発に取り組んでいる。このシステムは、疾病の早期発見と診断の効率化を目的とし、少子高齢化社会における医療費の増加を抑制することを目指している。開発したアルゴリズムは医師とほぼ同等の精度を有し、医療現場への導入が期待されている。従来は医師が手動で 90 秒ほどかけて行っていた診断が、本アルゴリズムによって一枚の画像当たりわずか 8 秒で出力可能になり、診断時間を約 90%削減した。現在は医療現場に導入すべく、システムの開発に注力している。診断の効率性を高め、医師が診断に積極的に介在できるようなインタラクティブな機能を搭載する。これにより、医師は診断をより正確に行えるようになり、患者へのケアの質も向上する。医師からのフィードバックを受けながら、現場の課題解決に取り組むことに大きなやりがいを感じている。

### ・IT 企業に興味を持ったきっかけ

私が IT 業界に興味を持つきっかけとなったのは父である。高校生までは父の仕事に興味を持たず、話を聞く機会もほとんどなかった。しかし、大学三年生の夏、父から仕事の話聞く機会があり、その時初めて父が印刷メーカー向けに PDF 出力ソフトウェアを開発していることを知った。父はソフトウェアが他人に喜ばれることに大きなやりがいを感じている。そのような父の姿を見て、一生懸命に取り組める仕事に出会い、毎日活き活きとしている姿に触発され、私も一生をかけて夢中になれる職に就きたいと思うようになった。